

授業概要

高等学校で生徒が身につけるべき内容を新学習指導要領の指導事項を理解して、新国語科の指導を通して確実に実力が高まるように授業展開を進めていく。

特に、思考力・判断力・表現力の育成を図るために、各領域の活動を相互に関連づける必要がある。そして、大学入試に際しての基本的な力量を定着させていくためにも自己表現力を高めていかなければならない。

授業においては、具体的な教材をとおして教科教育法を工夫改善していく方法を構築して求められている能力を発揮するために必要な教師の力量を考えていく手立てをとりたい。授業の楽しさ、面白さ、意欲の湧く授業を目指して教科教育法を展開できるようにする。

授業計画

第 1 回	高等学校で身につけるべきこと(1)	・論理的表現力を駆使する方法を指導する
第 2 回	高等学校で身につけるべきこと(2)	・常用漢字、改定常用漢字 ・名作への招待を行う
第 3 回	「書くこと」の系統性の具現化(1)	・新聞投書を集めて分析 ・投書を書く活動を指導する
第 4 回	「書くこと」の系統性の具現化(2)	・場面に応じた手紙を書く ・手紙の実際を指導
第 5 回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(1)	・数値に基づいて分析的に表現する方法を指導
第 6 回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(2)	・推奨文を書く活動方法を指導する
第 7 回	「読むこと」の系統性の具現化(1)	・評論を読み解く方法を指導する
第 8 回	「読むこと」の系統性の具現化(2)	・日本語の特徴を理解する活動を指導する
第 9 回	「読むこと」の系統性の具現化(3)	・登場人物の存在感を意識する学習活動を指導する
第 10 回	「読むこと」の系統的な具現化(4)	・描写の繊細さと文脈を捉える方法を指導する
第 11 回	情報リテラシーを理解する	・広告、パンフレットづくりの学習方法を考える
第 12 回	学習指導案の書き方	・指導案の実際と書き方 ・留意点の書き方等を指導する ICT の活用
第 13 回	高等学校国語科模擬授業実践(1)	・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 14 回	高等学校国語科模擬授業実践(2)	・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 15 回	国語科教育法Ⅳを振り返って	・よりよい授業とは ・授業実践の極意を話し合う
第 16 回	まとめ	レポート提出

到達目標

高等学校の国語科として身につけておくべき能力を理解して、各領域での模擬授業等を展開して、学習指導案の作成の仕方をより確かな実践で検証できることを目標とする。

履修上の注意

教師として高校国語科をどのように指導すればよいかということを明確にした自分づくりが求められることを認識して授業に臨んでほしい。

各領域での具体的な活動や書く力が求められることも少なくないので、自己の文章力向上に努めてほしい。模擬授業を増やし、実践力をつける。なお、履修にあたっては、国語科教育法Ⅰ・Ⅱをすでに履修し終えていること。

予習復習

- ・予習、復習を必ずして、自己の課題を押さえた上での授業参加をすること
- ・ノート整理を的確にして、学びの習慣化を図ること
- ・日頃から社会問題に関心をもって物事に取り組むこと

評価方法

授業内の学習活動（30%）及び、授業内の提出物および、模擬授業学習指導案の作成（30%）、授業の達成目標の達成度を課題レポート（40%）で評価する。

テキスト

教科書名：『高等学校学習指導要領解説書国語編』

著者名：文部科学省

なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。